

令和6年度(2024年度)教育委員会主要事業点検・評価表

めざすまちの姿1 安心して子育てができ、子どもが健やかに育っている

施策 01 子どもや子育て世代への支援

単位施策 1-1 親子ともに健やかな育ちを推進する

【社会教育課】

番号	1	事業名	家庭教育推進事業	事業費	836 千円
令和6年度 (2024年度)の 計画・目標		現代の子どもを取り巻く複雑な環境を家庭教育の観点から分かりやすく課題整理し、子育て中の保護者の悩みを軽減し、家庭教育力を向上させるため、未就学期から思春期までの様々な世代に合わせた講座・シンポジウムを開催する。			
実施内容		【家庭教育支援事業】 未就学児をもつ保護者同士がつながりをもち、地域の家庭教育力の向上を図ることを目的に4回講座を実施した。 延べ参加者数 36人 【家庭教育シンポジウム開催事業】 現代の子どもを取り巻く複雑な環境を家庭教育の観点から分かりやすく課題整理し、保護者の悩み解決の一助とするとともに、地域とのつながりを踏まえた家庭教育力の向上を図るため、家庭教育に関するシンポジウムを1回開催した。 参加者数 111人			
目標に対する 評価		講座等に参加することにより、保護者同士の交流が持てたり、子どものしつけやコミュニケーションの取り方等について理解を深めたり、また、シンポジウムでは、幼児期の子どもを持つ母親と関わる市民団体、不登校児童の居場所となるカフェを運営している市民団体、子どもにレクリエーション活動を提供する、地域の父親で構成される市民団体の3団体を選定し、幅広い年代の子どもについて抱える悩みを共有し、解決に向けて多角的な視点を提供することができた。			
課題・改善点		家庭教育支援事業については、まちづくり協働推進事業として一定の成果が上がってきたことや、他課等でも類似した事業等を実施していることから、令和6年度で区切りとする。家庭教育シンポジウムについては、より幅広い参加者にアプローチできるよう実施方法や募集方法を検討し、市民が家庭教育について考える機会を提供していく。			

施策 02 子どもの学び・体験への支援

単位施策 2-1 子どもの生きる力を養い、学びの機会を提供する

【学校教育課】

番号	1	事業名	英語が話せる子ども育成事業	事業費	49,896 千円
令和 6 年度 (2024 年度)の 計画・目標	学校生活において、英語を使うことを楽しみ、積極的に英語でコミュニケーションをしようとしたり、異文化を理解し日本文化を尊重しようとしたりする児童生徒の育成を図るため、引き続き、英語指導支援員（A L T）を全校に配置し、小中学校が連携する英語・外国語活動の充実を図る。				
実施内容	A L T 12 人を小中学校に配置し、「英語のあいさつ」「ゲーム」「英語の歌」など音声中心の活動で、主に英語の音やリズムに慣れ親しむ活動や、コミュニケーションを楽しむ授業を行った。また、日本とは異なる外国の文化等を紹介することで、子どもたちに興味をもたせることができた。授業の他、学校行事等でも子どもたちと過ごすことにより、自然に英語でコミュニケーションをとることができた。				
目標に対する 評価	令和 6 年(2024 年)12 月に、小学 5・6 年生と中学 1・2 年生を対象に「A L T との授業についてのアンケート」を実施し、小学 5 年生は 85%、小学 6 年生は 84%、中学 1 年生は 89%、中学 2 年生は 85%が A L T との授業が好きであると答えている。また、英語が使えるようになりたいと考えている児童生徒は、小学 5 年生は 78%、小学 6 年生は 77%、中学 1 年生は 74%、中学 2 年生は 81%であった。この結果から、小学校及び中学校の英語科における接続はおおむね良好といえる。A L T が歌やゲーム等、児童生徒にとって親しみやすい活動を取り入れたり、A L T が話す母国語レベルの英語に触れたりすることによる効果が大きい。また、英語への関心意欲を持続させることもできている。				
課題・改善点	A L T との授業が好きではないと回答する児童生徒の理由に、小中学校共通して「A L T が何を言っているのかわからない」という意見がある。今後も、歌やゲームを取り入れながら楽しい雰囲気の中で英語に親しめるようにする。また、授業の中で児童生徒が身近な生活場面を想定しながら日本語を使わず、英語でコミュニケーションできる場面を設定することで、英語に興味を持ち、伝え合う喜びを実感できるようにする必要がある。				

番号	2	事業名	①小学生親善交流事業 ②中学生親善交流事業
		事業費	①5,102 千円（米沢市 2,229 千円、釜石市 2,903 千円） ②1,570 千円（米沢市 510 千円、沖縄市 1,060 千円）
令和 6 年度 (2024 年度)の 計画・目標	姉妹都市である米沢市や釜石市、沖縄市との交流を通して、相互の歴史や文化の理解を深めるとともに、団員相互の連帯と協調を図ることを目標とする。		
実施内容	① 小学生親善交流事業 【米沢市】 市内小学校 5 年生の代表 24 名で構成する親善訪問団を 2 月 7 日から 3 日間米沢市へ派遣し、雪灯籠・雪ぼんぼりの制作、上杉雪灯籠まつり・上杉博物館等の見学、雪ん子少年団との交流を実施した。 【釜石市】 市内小学校 6 年生の代表 24 名で構成する親善訪問団を 8 月 21 日から 3 日間釜石市へ派遣し、釜石市の小学生との交流活動、いのちをつなぐ未来館・鶴住居復興スタジアムの見学、被災者の方の講話等を実施した。 ② 中学生親善交流事業 【米沢市】 米沢市の中学生 14 人を 7 月 25 日から 3 日間受け入れ、平洲記念館、芸術劇場（嚶鳴広場・対面の像）の見学、中部国際空港（セントレア）見学、陶芸体験及び日本製鉄株式会社名古屋製鉄所の工場見学等を実施した。 【沖縄市】 沖縄市の中学生 14 人を 11 月 29 日から 4 日間受け入れ、平洲記念館、日本製鉄株式会社名古屋製鉄所の工場見学、大田まつりの山車蔵等の社会見学や交流会等を行い、東海市の魅力を十分に伝えることができた。		
目標に対する 評価	① 小学生親善交流事業 【米沢市】 子どもたちが、平洲先生と鷹山公との絆が現代に引き継がれていることを自分たちの体験を通し、知ることができた。また、団員たちとの共同作業や体験活動を通して、協調性や相互扶助の精神を身につけることができ、今後の生活に生かそうとする姿勢が見られた。 【釜石市】 釜石市に訪れることで震災の悲惨さや防災教育の大切さを身に染みて学ぶことができた。また、姉妹都市である両市の関わりや互		

番号	2	事業名	①小学生親善交流事業 ②中学生親善交流事業
		事業費	①5,102 千円（米沢市 2,229 千円、釜石市 2,903 千円） ②1,570 千円（米沢市 510 千円、沖縄市 1,060 千円）
	いの文化や歴史について理解を深めることができた。 ② 中学生親善交流事業 【米沢市】 両市の郷土の違いを知り、東海市の良さに改めて気づくきっかけとなった。また、先施の心をもって米沢市訪問団をもてなすことができ、細井平洲先生と上杉鷹山公のように、両市の訪問団員の絆も深まった。 【沖縄市】 中学 2 年生で訪れる沖縄市をより深く感じ取ることができた。互いの郷土の違いを知るとともに、東海市の良さを再発見するきっかけとなった。また、おもてなしをする立場として、相手に対する気遣いや、積極性を学ぶことができた。		
課題・改善点	団員たちが本事業を通して学んだことを他の児童生徒にも伝え、市全体で姉妹都市の文化や歴史等について理解を深めていく必要がある。		

【学校教育課】

番号	3	事業名	沖縄体験学習事業	事業費	96,433 千円
令和 6 年度 (2024 年度)の 計画・目標	沖縄の持つ豊かな自然や文化・歴史・風土に触れることにより視野を広げるとともに、ふるさと東海市を客観的に見つめ、平和を愛し、命の大切さを学ぶことを目的とする。				
実施内容	中学校 2 年生全員を対象に、沖縄市及び渡嘉敷島などにおいて 3 泊 4 日の体験学習を実施し、海洋研修による自然体験、平和学習及び沖縄市立中学校での学校間交流などの活動を行った。				
目標に対する 評価	事業実施後のアンケートでは、「語り部の方からの話を聞き、子どもが当たり前のように死んでいく戦争の恐ろしさを感じた」「姉妹都市である沖縄市の中学校と交流をした際、短い時間であったが話せたのがとても嬉しかった」などの感想があり、96%の生徒が「とてもよかった」、「よかった」と回答している。また、生徒が平和等について考える貴重な経験となり、生徒の心に残る体験学習となった。				
課題・改善点	台風など、天候の影響により、急な行程変更が発生することが想定されるため、生徒が安全安心に活動ができ、また、事前学習の成果が達成できるような方策を検討していく必要がある。				

【学校教育課】

番号	4	事業名	食育推進事業	事業費	961,007 千円
令和 6 年度 (2024 年度)の 計画・目標	老朽化した施設の修繕及び厨房備品を更新し、安全な学校給食を提供する。また、地場産物の利用拡大、地元企業との連携、献立の工夫等により楽しい学校給食を提供する。 栄養バランスにすぐれ、子どもたちの成長に必要な摂取カロリーを満たすことができる適切な学校給食を提供する。 また、併せて適正な学校給食費に見直す。				
実施内容	施設面では、加木屋調理場の空調機を取替工事及び明倫調理場・加木屋調理場の廃水処理施設整備工事を行った。厨房備品については、加木屋調理場の食缶消毒保管機 5 台を更新した。 献立については、毎月 10 日には「トマトの日」、19 日には「東海市もぐもぐ食育デー」として、地元企業と連携したトマト給食や、地場産物を多く利用した特別献立、また、「姉妹都市の郷土料理を味わう日」として、姉妹都市の郷土料理を取り入れた学校給食の提供を行った。 食物アレルギーを有する児童生徒のために、10 月から主食が「パン」、「麺」、「麦ご飯」、「五穀ご飯」の献立の日に「パックご飯」の提供を開始した。 学校給食費は、適正な価格を検討し、令和 7 年（2025 年）4 月より小学校 310 円、中学校 360 円に改定した。				
目標に対する 評価	調理業務環境を整えることにより、安全な給食の提供を行うことができた。 地元企業との連携、地場産物や郷土料理を取り入れたことにより、地域の食文化や食に関する産業の理解を深めることができた。 また、主食の代替食提供については、アレルギーを有する児童生徒が代替用の弁当を持参することがなくなり、保護者の負担軽減が図られ、児童生徒が温かいご飯を食べることができるようになり、成果があったと認識している。				
課題・改善点	老朽化した施設・設備の計画的な更新や修繕を行い、引き続き安心安全な給食を提供する必要がある。				

【学校教育課】

番号	5	事業名	授業力向上事業	事業費	2,384 千円
令和 6 年度 (2024 年度)の 計画・目標	子どもたちの学力向上には、教員の資質向上が不可欠である。各学校の実態に即した研修と研究を行うことにより、教員の授業力向上を図る。とりわけ、特別支援教育に関しては、近年の急激な特別支援学級、中でも広汎性発達障害等の子どもたちが在籍する自閉症・情緒障害学級の増加だけでなく、通常の学級にも ASD や LD, ADHD と				

番号	5	事業名	授業力向上事業	事業費	2,384 千円
	いった特別な支援を要する児童生徒が一定数在籍するといわれるなど、自閉症・情緒障害及び発達障害の理解に関するニーズが高い。資格をもつ講師による「生きる力と心を育むプログラム『セカンドステップ』」を自閉症・情緒障害学級を主とした特別支援学級で実施することにより、発達障害等の子どもたちの理解と支援について教員が学び、学校生活での指導につなげていく。				
実施内容	教員の授業力向上を図るため、各校において研修・研究を実施し、特別支援教育等の充実のためのモデル校を中心とした授業研究を行った。				
目標に対する評価	実践的・体験的な研修や授業の参観により、日頃の教育活動の課題解決につながった。また、教員が学んだことを生かして授業改善に取り組んだことで、児童生徒が意欲的に学び、主体的に考えようとする意識が高まった。				
課題・改善点	教育活動に関する先進的な取組を行う講師や、教育現場の今日的課題に指導・助言をもらえる講師を招き、モデル校を指定して研修を行うなど、先を見据えた研修を実施していく。				

【社会教育課】

番号	6	事業名	こども未来会議開催事業【新規】	事業費	1,493 千円
令和6年度 (2024年度)の 計画・目標	本市の将来を担う子どもたちが、子どもたちのころに公共の場での話し方や自分の意見を述べる力を身に付けることは、子どもたちの成長にとって非常に意義があるとともに、将来における本市のまちづくりにも大いに寄与するため、市制55周年記念事業として、市のまちづくりに対して提案や夢を表明する場として、こども未来会議を開催する				
実施内容	第7次東海市総合計画で掲げているめざすまちの姿（5つの分野）をテーマとして、市内小学生23人がまちづくりに対する提案や夢を表明する「こども未来会議」を開催した。				
目標に対する評価	参加した小学生からは、こども未来会議へ参加したことが大きな自信となったり、今後色々なことに挑戦する意欲につながった等の声をいただき、小学生に貴重な体験を提供できた。				
課題・改善点	こども未来会議は、市制55周年記念事業として実施した事業であり、子どもたちのころに公共の場での話し方や自分の意見を述べる力を身につける目的で開催したが、小学生からの提案に対する実現性の検討を加えるか等、次回実施するタイミングがある際は検討する必要がある。				

単位施策 2-2 悩みを抱える子どもに寄り添った支援を充実させる

【学校教育課】

番号	1	事業名	学校の居場所づくり事業	事業費	30,327 千円
令和 6 年度 (2024 年度) の 計画・目標	不登校やいじめの原因解消と、子どもたちが抱える問題の早期発見につなげるため、心の不安や体調不良を訴え、保健室などに居場所を求める子どもたちに対し、その相談相手となる養護教諭と連携して対応する「心の相談員」を配置する。				
実施内容	令和 6 年度(2024 年度)は、小学校 7 校、中学校 6 校に心の相談員を配置し、複数の目で見守ることにより、相談しやすい環境を整えた。				
目標に対する 評価	保健室に養護教諭もしくは心の相談員のどちらかがいることで、来室した児童生徒と話をすることができ、子どもたちに安心感をもたらすことができた。また、気になる子どもの情報共有を行うことで、不登校傾向の子どもの早期発見にもつながり、不安解消への一助となっている。				
課題・改善点	県の養護教諭に欠員が出た際、養護教諭の資格をもつ本市の心の相談員が県採用の養護教諭となることにより心の相談員が欠員となるケースが度々ある。子どもたちが安心して来室できるよう、安定した配置を図る必要がある。				

【学校教育課】

番号	2	事業名	各種サポート事業	事業費	149,337 千円
令和 6 年度 (2024 年度) の 計画・目標	児童生徒に対し必要な支援ができるようにするため、目的に応じて特別支援教育支援員及び障がい児サポーター、読書活動サポーターを配置し、学校生活の支援の充実を図る。				
実施内容	特別支援教育支援員を各小学校に 1～3 人(計 20 人)配置し、発達障害の傾向がある児童に対して必要な支援を行った。また、身体障害があるなど、校内生活における安全管理が必要な児童生徒に対し、障がい児サポーターを 15 小中学校に 1～4 人(計 34 人)配置し、対象児童生徒の補助等を行った。 また、各小学校に読書活動サポーター1 人(計 12 人)を配置し、図書館整備や図書委員会の補助、本の読み聞かせ等を行った。				
目標に対する 評価	特別支援教育支援員の配置により、通常の学級に在籍する発達障害の傾向にある児童生徒が学校生活を送る上で必要な支援を行うことができ、在籍する学級運営に有効であった。さらに、障がい児サポーターの配置は障害により校内での安全管理が必要な児童生徒への合理的配慮の提供となり、それぞれの児童生徒が安心して通学し、学校生活を送ることができるようになった。				
課題・改善点	特別な配慮を要する児童生徒が増加傾向にある中で、障がい児サポーターや特別支援教育支援員の配置等について十分な検討が必要で				

番号	2	事業名	各種サポート事業	事業費	149,337 千円
	ある。				

【学校教育課】

番号	3	事業名	不登校対策事業	事業費	35,024 千円（SSW人件費は職員課予算）
令和6年度 (2024年度)の 計画・目標	不登校傾向等の問題を抱える子どもたちに対して、豊かな人間関係や社会性の育成など、自立への基盤づくりを支援するため、教育支援センター「ほっと東海」の運営や、宿泊体験活動「青空教室」を実施するとともに、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを配置及び不登校対策協議会を設置し、子どもたちの早期の学校復帰などを支援及び早期解決を図る。				
実施内容	教育支援センター「ほっと東海」では、教育相談員と教科指導員、サポーターを上野公民館教室、横須賀教室及び平洲中学校教室に各1名ずつ配置し、不登校の要因、不登校による学習の遅れ等をきめ細かく指導している。9月14日から3日間、国立若狭湾青少年自然の家で青空教室を実施した。 また、スクールカウンセラーについては、県からの派遣が充分でない小学校へ4人派遣し、不登校傾向の児童への支援を行い、スクールソーシャルワーカーは、拠点校を中心に各機関と連携しながら家庭的背景を要因とする不登校傾向の児童生徒に対し、福祉等の観点から効果的な働きかけを行い、不登校対策協議会では、不登校の全市的な傾向や実態を把握・分析し、不登校状態の児童生徒に対する支援推進等を協議した。				
目標に対する 評価	不登校傾向にある児童生徒に対して居場所や学ぶ場の提供、自立のための援助をすることができた。				
課題・改善点	生活リズムの乱れ等を要因とする登校渋りや、中1ギャップなど複合的な要因により不登校傾向の児童生徒の増加が見受けられることから、教員やほっと東海、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーによるグループ支援を強化し、必要に応じて関係機関との連携を深め、不登校の未然防止や解消に繋げていく必要がある。				

【学校教育課】

番号	4	事業名	子どものいじめ防止等対策委員会設置事業	事業費	1,988 千円
令和6年度 (2024年度)の 計画・目標	東海市子どものいじめ防止条例の制定を受け、子どものいじめ防止等対策委員会を設置し、いじめの全市的な傾向や実態を把握・分析し、いじめ対策を推進する。 また、子どもたち自身がいじめを防ぐために何ができるかを考える				

番号	4	事業名	子どものいじめ防止等対策委員会設置事業	事業費	1,988 千円
	機会とするため、「東海市子どものいじめ防止サミット」を開催する。				
実施内容	平成 28 年(2016 年)4 月に東海市子どものいじめ防止条例が施行されたことに伴い、年 2 回東海市子どものいじめ防止等対策委員会を開催し、本市のいじめの状況や学校での取組み、今後の課題等について協議した。また、いじめ事案における調査等の対応に当たり、対策委員会から選任した委員などを部会員として専門部会を設置し、調査を行っている。 また、平成 28 年度(2016 年度)より、「東海市子どものいじめ防止サミット」を立ち上げ、市内 18 小中学校から選出された代表児童生徒がいじめに対する意見交換を行っており、令和 6 年度(2024 年度)は、対面形式とオンライン形式で各 1 回、合計 2 回サミットを実施した。各校の代表が、自校の取組状況の報告をしたり、他校の取組に対する質問をしたり、東海市全体として取り組みたいことについて意見を交換した。また、サミットの提言を受け、生徒指導研究部会では、いじめ防止の力を育むための「いじめ未然防止プログラム」の検証授業を行った。				
目標に対する評価	「いじめ防止サミット」の活動として、各校の児童会・生徒会が中心となっていじめ防止のために何ができるのかを考え、子どもたちが主体的に活動をすることができ、「いじめをしない・させない・見逃さない」の意識が高まっている。 また、「いじめ未然防止プログラム」が各校で行われ、子どものいじめ防止に向けた取組みが計画的に実施された。				
課題・改善点	いじめの中には、インターネットやSNSによるトラブル、コミュニケーション不足から始まるものもあるため、情報モラル教育の推進や教員の資質向上に取り組むとともに、子どもの自己肯定感を高め、学校に居場所があることを感じられるような魅力的な学校づくりなど、未然防止に力を入れる必要がある。 また、いじめ防止サミットで各学校がいじめ防止に向け取り組んだ内容を拡散し、継続していじめのない学校づくりに取り組んでいく。				

単位施策 2-3 子どもが安心安全で快適に学ぶことができる環境を整備する

【学校教育課】

番号	1	事業名	小中学校等改修事業	事業費	608,577 千円
令和 6 年度 (2024 年度)の 計画・目標	東海市学校施設長寿命化計画に基づく学校施設の老朽化対策としての予防保全と教育環境の質的な向上を併せて実施する長寿命化により、校舎等の改修や設備の取替を計画的に行う。				

番号	1	事業名	小中学校等改修事業	事業費	608,577 千円
実施内容	外壁改修（渡内小、明倫小、平洲中）、防水改修（緑陽小、渡内小、明倫小、平洲中）、屋内運動場空調機設置（上野中、平洲中）、非構造部材改修（渡内小、富木島小、船島小、加木屋小、加木屋南小、上野中）、照明器具取替（平洲中）を行った。				
目標に対する評価	令和6年度(2024年度)に実施する施設整備は年度内に完了し、児童生徒が快適に学校生活を送ることができる環境を確保することができた。				
課題・改善点	児童生徒が快適で安全・安心な学校生活が送れるよう学校施設長寿命化計画に基づき、計画的な更新や改修を実施する必要がある。				

【学校教育課】

番号	2	事業名	小学校トイレ洋式化整備事業	事業費	100,953 千円
令和6年度(2024年度)の計画・目標	学習環境及び学校での生活環境を充実させるため、トイレの洋式化によりトイレの環境改善を図る。				
実施内容	小学校12校の高学年の児童が利用する普通教室に面したトイレ146カ所の洋式化及び小便器自動洗浄器設置を行った。				
目標に対する評価	洋式化及び小便器自動洗浄器設置により、児童がトイレを利用しやすくなり、児童生徒の学習環境及び学校での生活環境の改善を図ることができた。				
課題・改善点	洋式化など小中学校トイレの環境改善に寄与する事業を今後も計画的に実施する必要がある。				

【学校教育課】

番号	3	事業名	小学校特別教室空調機設置事業	事業費	93,313 千円
令和6年度(2024年度)の計画・目標	学習環境及び学校での生活環境を充実させるため、小学校の音楽室に空調機を設置する。				
実施内容	小学校の特別教室（音楽室1教室）へ空調機設置を行った。				
目標に対する評価	空調機設置により、児童生徒の学習環境の改善を図ることができた。				
課題・改善点	他の特別教室についても環境改善に寄与する事業を今後も計画的に実施する必要がある。				

単位施策 2-4 学校と家庭・地域の連携を充実させる

【学校教育課】

番号	1	事業名	学校評価事業	事業費	1,068 千円
令和6年度 (2024年度)の 計画・目標	学校運営の改善を図り、開かれた学校、地域に信頼される学校づくりを進めるため、各小中学校で学校評価を実施する。				
実施内容	児童生徒、保護者、教員及び地域に対し、それぞれの学校の方針や学校運営の方向性等についてのアンケートを実施した。また、教育活動、学校運営の自己評価も行い、アンケート結果とともに公開した。経年変化を見ていく項目と重点に絞る項目と区別をしっかりとアンケート項目を精選した。				
目標に対する 評価	学校の重点目標を明確にしたアンケートを実施することにより、今年度取り組んできた教育活動を客観的に振り返ることができた。また、その結果を基に、来年度の教育方針を立てる一助となった。さらに、アンケート項目を精選したことにより、成果と課題が明確になった。				
課題・改善点	より評価しやすいアンケート項目の検討を行うとともに、学校評価アンケート以外での評価指標の検討を行っていく必要がある。				

【学校教育課】

番号	2	事業名	学校支援協議会設置事業	事業費	3,502 千円
令和6年度 (2024年度)の 計画・目標	保護者や地域住民に学校の運営、支援、評価に対する理解と協力を得つつ、地域のボランティアに支えてもらう開かれた学校づくりを進めるため、小学校で学校支援協議会を運営する。				
実施内容	平成24年度(2012年度)より配置したボランティアコーディネーターを活用して、学校のニーズに基づいて、地域住民が学校運営に参画した。(三ツ池小学校、加木屋中学校を除く。)				
目標に対する 評価	令和6年度(2024年度)は3,565人が学校支援ボランティアとして活動した。学校評価アンケートでは、約7割の地域住民が「学校からの協力依頼があれば、できるだけ協力したい」と回答しており、今後の事業への活かし方を検討していく。				
課題・改善点	ボランティアコーディネーターを活用して、学校のニーズと地域住民のボランティアへの意欲とのマッチングをする必要がある。				

【学校教育課】

番号	3	事業名	学校運営協議会設置検証事業 【新規】	事業費	77 千円
令和 6 年度 (2024 年度)の 計画・目標	未来を担う子どもたちの成長を地域全体で支える仕組みの実現に向け、「地域とともにある学校づくり」を目指し、モデル校において設置した学校運営協議会と、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して様々な活動を行う地域学校協働活動を一体的に推進するため、実施検証する。				
実施内容	地域、家庭の学校運営への参画や支援、協力を促進し、「地域とともにある学校づくり」を進めるため、モデル校に三ツ池小学校及び加木屋中学校に学校運営協議会制度を令和 6 年度から導入し、学校運営協議会を開催した。				
目標に対する 評価	学校が地域や保護者と教育目標を共有し、組織的・継続的な連携ができた。				
課題・改善点	対象校を段階的に拡大していく必要がある。				

【社会教育課】

番号	4	事業名	地域学校協働活動検証事業 【新規】	事業費	714 千円
令和 6 年度 (2024 年度)の 計画・目標	地域、家庭及び関係団体など、幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えると同時に、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域住民等と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う地域学校協働活動の実証実験を行う。				
実施内容	三ツ池小学校及び加木屋中学校をモデル校に指定して、地域学校協働活動の実証実験を行った。 【要綱等の策定】 東海市地域学校協働本部設置要綱及び東海市地域学校協働活動推進員設置要綱を策定し、地域学校協働活動推進員を各校 2 人ずつ委嘱した。				
目標に対する 評価	地域学校協働活動と同じく実証実験を行っている学校運営協議会の委員に地域学校協働活動推進員を加え、地域学校協働活動を円滑に進めるための体制が整備できた。				
課題・改善点	実証実験の初年度ということもあり、実際の活動調整等の場面では、各校の教頭先生の負担が依然として大きいため、活動の趣旨等を地域にも浸透させ、活動拠点を活かした周知・啓発に取り組んでいく必要がある。				

単位施策 2-5 地域と協力し、子どもの健全な成長を支援する

【社会教育課】

番号	1	事業名	学習支援教室開催事業	事業費	2,710 千円
令和 6 年度 (2024 年度)の 計画・目標	家庭学習が十分でなく、学習習慣が身につけていない中学生を対象に、学習する場を提供して生徒の居場所をつくとともに、学習習慣を身につけることで基礎学力の向上を支援する。また、市内在住の生徒を広く受け入れるため、開催場所を市内南北 2 か所に設定して実施する。				
実施内容	市内の 6 中学校の全学年生徒を対象に、毎週土曜日及び日曜日に市内南北 2 か所で実施し、学習支援員等による学習の支援を行った。 実施回数 北地区（日曜日） 41 回 南地区（土曜日） 41 回 延べ参加者数 北地区（日曜日） 364 人 南地区（土曜日） 673 人				
目標に対する 評価	北地区、南地区ともに出席率は良好であり、生徒の居場所づくり及び基礎学力の向上につながったと考える。また、中学 3 年生の参加者について、全員進学することが決定した。生徒からは「分からないことがすぐに聞けて良かった」「学校より詳しく教えてもらった」等の感想もあり、気軽に参加できる雰囲気をつくることができていると考える。				
課題・改善点	生徒の学習方法もタブレットを活用したものにシフトしてきていることから、必要な環境整備を検討していく必要がある。				

【社会教育課】

番号	2	事業名	放課後児童対策事業	事業費	210,693 千円
令和 6 年度 (2024 年度)の 計画・目標	子どもたちの安全で安心な居場所の提供と、多様な体験活動を推進すると共に、地域全体で子どもの健全育成を図るため、子ども教室と放課後児童クラブを連携して実施する。				
実施内容	子ども教室では、小学校の特別教室等の施設を活用し、地域住民等の協力を得て、文化活動やスポーツ、学習活動等を実施した。ものづくり特別教室（ものづくり道場）については、市制 55 周年記念イベントとして「サーカスエコロジカル&みらい楽器ラボ コラボショー」を実施した。 放課後児童健全育成事業では、保護者が就労等で昼間家庭にいない小学 1 年生から 6 年生までの全学年の児童を対象に生活の場と遊びの場を提供し、安全・安心な居場所づくりを行った。 放課後子ども総合プラン運営委員会を 10 月と 3 月に開催した。				
目標に対する 評価	子ども教室と放課後児童健全育成事業を連携して実施し、子どもたちにとって安全・安心な居場所を確保することができた。 子ども教室については、令和 4 年度（2022 年度）より引き続き拡充して実施しているスポーツ等体験機会を提供し、多くの児童が参加し、				

番号	2	事業名	放課後児童対策事業	事業費	210,693 千円
		様々な体験機会を提供できた。 放課後児童健全育成事業については、令和7年（2025年）の春休みに、小学校の長期休業期間中における昼食提供の実証実験を実施するなど、利用者ニーズを踏まえた運営を行った。 放課後子ども総合プラン運営委員会を10月と3月に開催し、船島小学校の子ども教室と放課後児童クラブの一体型運営の視察を行い、学校教育課、こども課と連携して総合的に協議することができた。 【子ども教室】 12 小学校 ・延べ参加者数(体験教室) 10,441 人(前年度比較 203 人増) 1 回当たり 12.5 人 ・教室開催回数 838 回(前年度比較 28 回減) ・延べボランティア講師数 1,529 人(前年度比較 56 人増) 【ものづくり特別教室（ものづくり道場）】 ・実施ブース数 23 ブース(事前予約 12 ブース、当日参加 11 ブース) ・来場者数 1,700 人 【放課後児童健全育成事業】 12 小学校 平日 1 日当たり平均利用人数 843 人(前年度比較 25 人増)			
課題・改善点		子ども教室は、人気教室にとらわれることなく、様々な内容の教室に取り組み、豊かな体験活動の場を提供していく。夏季の猛暑による児童生徒の熱中症事故を未然に防止するため、夏季（5月～9月）における体育館及び校庭での体験教室については、暑さ指数（WBGT）を考慮した運営方法で実施していく必要がある。 放課後児童健全育成事業は、児童を安全・安心に預かることができるよう、適切なクラブ室や指導員の確保が重要であるため、利用者数が増加している地区のクラブを中心に、実施場所の確保に向けた学校との調整及び指導員の確保に努める必要がある。			

【社会教育課】

番号	3	事業名	青少年居場所づくり推進事業	事業費	157 千円
令和6年度 (2024年度)の 計画・目標		青少年の良好な対人関係づくりを支援するために、スポーツ活動等を通して青少年と大人との交流を図り、青少年の社会性や協調性を育む機会を提供する。			
実施内容		ふれあい活動として、小学校5年生から中学生対象のボウリング競技を実施し、学生ボランティアや関係機関等の協力者を含め、42人が参加した。			
目標に対する 評価		ふれあい活動を通して、青少年と大人との交流が生まれ、青少年が他者と協力したり役割を果たそうとする姿が見られ、良好な対人関係			

番号	3	事業名	青少年居場所づくり推進事業	事業費	157 千円
	づくりの一助になったと考える。				
課題・改善点	青少年が地域で健全に成長するために、今後も地域、学校、警察、各種団体等多様な関係機関が連携し、大人たちとの関わりを通じて青少年の社会性を育み、心の拠り所となる活動を検討していく必要がある。				

めざすまちの姿 4 心身ともに健康で、いきいきと生活している

施策 12 生涯学習の推進

単位施策 12-1 市民の生涯学習活動を支援する

【社会教育課】

番号	1	事業名	映画等制作事業	事業費	48,585 千円
令和 6 年度 (2024 年度) の 計画・目標	東海市を撮影地とした映画を制作することで、東海市の魅力再発見と創造の杜交流館への理解を深めるとともに、P R 等を図る。				
実施内容	短編映画 2 作品、映画制作ワークショップによる 1 作品の撮影・制作、ドキュメンタリー撮影を実施した。				
目標に対する 評価	映画制作活動では、ロケ地協力やエキストラ出演等により、多くの市民の関わりと交流を生み出すとともに、本市に著名な方が訪れ、本市の魅力を発信してくれることで、市民に本市の魅力を改めて感じていただく機会とすることができた。 また、映画制作ワークショップを実施し、脚本制作、撮影及び映像を編集することの楽しさを体感する機会を提供することができた。映像・映画に関わる人材育成も意識され、将来的なひとづくりへの波及も期待できるきっかけとなった。 映画等制作事業の周知を通して、映像を身近に感じてもらい、地元や市民等に対して、創造の杜交流館の周知や理解を深めることができたと考えている。				
課題・改善点	引き続き、本市が撮影地の短編 2 作品を含む「MIRRORLIAR FILMS Season7」の上映等を通じて、本市の魅力をより多くの市民等に発信し、本市の魅力を再発見してもらうよう活用していく必要がある。 また、映画制作ワークショップによる市民が制作した映画を活用し、映像(映画)を身近に感じ、興味を持ってもらうきっかけとなるよ				

番号	1	事業名	映画等制作事業	事業費	48,585 千円
	う努めるとともに、創造の杜交流館が、映像(映画)を撮影・編集・上映のできる「映像(映画)を中心とした創造活動の場」として、利用できる施設であることの周知に活用していく必要がある。				

【社会教育課】

番号	2	事業名	市民館体育室等空調機設置事業 【新規】	事業費	62,895 千円
令和6年度 (2024年度)の 計画・目標	市民館の体育室等における夏季の利用者の安全安心な活動環境を確保するため、計画的に体育室等に空調機を設置する。				
実施内容	富木島公民館多目的室、加木屋南市民館体育室及び三ツ池市民館体育室に空調機を設置した。				
目標に対する 評価	市民館等3館の体育室に空調機を設置することで、利用者の安全安心な活動環境を確保することができた。				
課題・改善点	空調機が未設置となっている船島市民館、大田市民館及び加木屋市民館の体育室への空調機の設置を計画的に進めていく必要がある。				

【社会教育課】

番号	3	事業名	創造の杜交流館整備事業	事業費	2,712,364 千円
令和6年度 (2024年度)の 計画・目標	「横須賀文化の発信拠点」、「映像(映画)を中心とした創造活動の場」、「多世代交流の場」をコンセプトに、東海市創造の杜交流館を整備する。				
実施内容	創造の杜交流館の建設工事、横須賀文化発信コーナーの整備、備品購入及び設置等を実施した。また、PR映像の制作や車内広告等、創造の杜交流館のPRを実施し、開館後の利用促進に取り組んだ。				
目標に対する 評価	予定通りの工期で創造の杜交流館の建設工事等を完了させ、開館に向けた整備ができた。 会議室等の貸室の整備だけでなく、横須賀文化発信コーナーを新たに整備したことで、横須賀の歴史や文化を多くの方に発信する設備を整えることができた。 映像等を用いた広告により、市民をはじめ市内外に対して、創造の杜交流館のPRをすることができた。				
課題・改善点	令和7年度(2025年度)から指定管理者制度により、民間のノウハウを活かした管理運営体制を整えていくとともに、継続的な施設の周知及び利用促進に努める必要がある。				

単位施策 12-2 読書を楽しむ環境を充実させる

【中央図書館】

番号	1	事業名	子ども読書活動推進事業	事業費	7,982 千円
令和6年度 (2024年度)の 計画・目標	子どもが自然に読書に親しみ、言葉を学び、感性を磨き、豊かな表現力と創造力を醸成するため、子どもが本に触れる機会の拡大と読書環境の充実を図る。				
実施内容	【子ども文庫(小学校)事業】 小学生に薦めたい本をセットした「わくわく文庫」を1～6年生は毎月1回、特別支援学級は学期ごとに学校・学級間で巡回させ、全学年で892冊の児童書を更新し、小学校間の移動時には、書籍消毒機を使用して本を除菌・消毒し、子どもの読書環境を整備した。また、小学校での読書支援では、児童向けのブックトークやおはなし会に加え、本の修理などを実施した。 【子ども司書体験講座】 小学4～6年生を対象に、図書館を身近に感じ、本や読書に対する理解を深めてもらうために、窓口業務を含む図書館司書の仕事を体験する講座を実施した。				
目標に対する 評価	子ども文庫(小学校)事業では教室内という身近な場所で多くの本に触れる機会を提供できた。子ども司書体験講座では、参加数は減少したものの、昨年度参加者もあり、より図書館や司書への関心を深めてもらうことができた。				
課題・改善点	「わくわく文庫」は児童の生活に定着してきているが本の傷みが多く出ているため、今後も計画的に更新していく必要がある。				

【中央図書館】

番号	2	事業名	中央図書館運営事業	事業費	36,476 千円
令和6年度 (2024年度)の 計画・目標	生涯学習の拠点として広く市民に親しまれる図書館を目指し、市民の多様な要望に応えられる図書館運営を行う。				
実施内容	幅広い年齢層の市民が本に親しみ、必要とする情報を得られる場を提供した。子ども達を物語の世界へ誘い込むきっかけづくりとして、読み聞かせボランティアの協力による「お話友の会」等の実施及び読み聞かせ活動の活性化を図るため、読み聞かせに関する初心者向け講座を開催した。 また、図書館をより身近に感じてもらうため、各種展示会や「本のリサイクル日」等を実施するとともに、小学生の施設見学の受入れ及び読書感想文コンクールの実施など、学校との連携も図った。				
目標に対する 評価	市民の生涯学習機会を充実させるため様々な事業を実施できた。子ども向けの「お話友の会」は69回実施し、計1,058人が参加、「読み				

番号	2	事業名	中央図書館運営事業	事業費	36,476 千円
		聞かせボランティア講座」は子どもの発達に合わせた絵本の選び方や読み聞かせを行う側に必要な心構え等について学び、読み聞かせ活動を行う際に必要な知識とスキルを身に着けることができた。 また、季節や時事に合わせた図書の展示を実施し、幅広い世代に図書館をアピールしたと評価できる。			
課題・改善点		中央図書館、横須賀図書館はともに建築から 40 年以上経過し、施設の老朽化、駐車場の不足等が課題で、計画的な施設修繕や市民の利便性の向上を検討する必要がある。市民にとって利用しやすく、興味や関心を引く本が紹介できる環境の整備と蔵書の充実を目指していく。			

【中央図書館】

番号	3	事業名	日本福祉大学図書館連携事業	事業費	398 千円
令和 6 年度 (2024 年度)の 計画・目標	市民の読書機会を増やし、生涯学習活動を充実させるため、日本福祉大学東海キャンパス図書館と連携する。				
実施内容	日本福祉大学東海キャンパス図書館に一般市民向けの本・雑誌を配本した。				
目標に対する 評価	小説や実用書等一般市民向け図書 103 冊と雑誌 20 誌を配本し、市民の生涯学習の場を増やすことができた。				
課題・改善点	一般市民が大学図書館を気軽に利用できるよう、「図書館だより」等で周知を図る必要がある。				

施策 13 スポーツの推進

単位施策 13-1 市民のスポーツ活動を推進する

【スポーツ課】

番号	1	事業名	スポーツ推進委員会設置事業	事業費	8,364 千円
令和 6 年度 (2024 年度) の 計画・目標		各種スポーツの市民大会運営や、各種団体との連携によるスポーツ教室・スポーツイベント等を開催し、市民のスポーツ振興及び健康増進を図る。			
実施内容		【会議関係】			
		スポーツ推進委員会全体委員会		年 12 回	
		【大会関係】			
		・ 市民ペタンク大会			
		令和 6 年（2024 年）5 月 11 日		参加者 57 人	
		・ 夕涼みモルック			
		令和 6 年（2024 年）8 月 17 日		参加者 128 人	

番号	1	事業名	スポーツ推進委員会設置事業	事業費	8,364 千円
	・体力テスト&ニュースポーツ体験会 令和6年(2024年)10月20日 参加者167人 ・大田川健康ウォーキング 令和6年(2024年)10月27日 参加者182人 以上の活動の他にも、市や地域のスポーツ活動に関わるとともに、知多北地区スポーツ連絡協議会の活動を通じて、近隣市町との交流及び情報交換を実施した。				
目標に対する評価	各種イベントの参加人数は、前年と比較して軒並み増加しており、スポーツ推進委員会の活動により、市民のスポーツ機会の充実が図れている。ニュースポーツの大会や体験会においては、モルックを中心に参加者数は増加しており、その認知を広げることができた。				
課題・改善点	子育て世代や働く世代のスポーツ実施率が低いため、これらの世代が参加したくなるような魅力ある事業の展開を行う必要がある。				

【スポーツ課】

番号	2	事業名	学校部活動地域移行推進補助事業【新規】	事業費	6,200 千円
令和6年度(2024年度)の計画・目標	「令和7年(2025年)9月以降、休日の部活動を行わない」という方針のもと、子どもたちが将来にわたってスポーツや文化芸術活動に親しむことができるよう、地域で活動するための環境整備を行う。				
実施内容	スポーツ活動の場づくりの担い手となる、総合型地域スポーツクラブ「(一社)スポーツクラブ東海」が行うジュニアクラブ事業の活動に要する経費に対し補助を行う。				
目標に対する評価	ジュニアクラブ事業の準備を進めるため、活動場所の確保や活動費等に対し、支援することができた。 【令和7年9月以降のジュニアクラブの実施種目】 バレーボール、軟式野球、バトミントン、剣道、陸上、ソフトボール、サッカー、ハンドボール、バスケットボール、ソフトテニス、硬式テニス、柔道、卓球、ラグビー(14種目)				
課題・改善点	子どもたちの活動の場の更なる展開のため、種目数や活動場所の拡充ができるよう、「(一社)スポーツクラブ東海」と連携を図り、引き続き支援を行う必要がある。				

単位施策 13-2 スポーツに取り組む環境を充実させる

【スポーツ課】

番号	1	事業名	東海ハーフマラソン開催補助事業	事業費	31,000 千円
令和6年度 (2024年度)の 計画・目標	市民のスポーツに対する興味関心を高め、スポーツ振興及び心身両面にわたる健康の保持増進につなげていくとともに、全国からの交流人口を拡大し、にぎわいの創出と地域経済の活性化を図っていくため、ハーフマラソン大会の開催に向けて補助を行う。				
実施内容	開催日：令和6年（2024年）12月8日 場所：名鉄太田川駅周辺一帯 種目：【ハーフマラソンの部：定員3,500名】 3,133名 参加 【10kmの部：1,000名】 874名 参加 【2kmの部：1,000名】 955名 参加				
目標に対する 評価	当日は、県内外から4,962名が参加したことで、交流人口の拡大及び太田川駅前を中心としたにぎわいの創出と地域経済の活性化を図ることができた。				
課題・改善点	4回目の開催となり、運営は滞りなく行えるようになってきたが、引き続きボランティアスタッフ等の適正な人員配置を検討していく必要がある。				

【スポーツ課】

番号	2	事業名	第20回アジア競技大会開催支援事業【新規】	事業費	1,000 千円
令和6年度 (2024年度)の 計画・目標	令和8年（2026年）開催の第20回アジア競技大会についてカバディの競技会場として東海市民体育館が仮決定したことに伴い、市民の機運を高め、開催に向けた準備をするもの。				
実施内容	・カバディ講習会の実施 ・全日本カバディ選手権大会の視察 ・小学校、児童館、中央図書館、コミュニティセンターへのカバディ漫画配置 ・アジア大会PRチラシの全戸配布				
目標に対する 評価	アジア大会PRチラシと併せて人気カバディ漫画を学校及び公共施設に配置したことで、アジア大会の開催及びカバディ競技の知名度を向上することができた。				
課題・改善点	アジア競技大会開催のPRに留まらず、カバディに興味や関心を持ってもらうため、体験会を定期的に開催するなど、市民が継続的に実施できる環境作りが必要である。				

施策 14 文化芸術の推進

単位施策 14-1 質の高い文化芸術に親しむ環境を提供する

【文化芸術課】

番号	1	事業名	文化祭開催補助事業	事業費	5,600 千円
令和 6 年度 (2024 年度) の 計画・目標	市民参画による発表・創造活動が展開され、街全体に賑わいがあふれるようにするため、市民文化活動の発表及び鑑賞の場、交流の場として開催する東海市文化祭に対して補助する。				
実施内容	開催日：令和 6 年(2024 年)11 月 2 日～3 日 場 所：東海市民体育館 内 容：日頃の成果発表の場、発表作品の鑑賞の場として、以下のとおり展示等を行った。 【文芸部門】短歌大会、俳句大会、川柳大会 【美術部門】絵画展、書道展、写真展、工芸展、切手・絵手紙展、市民茶会、華道展、草樹展、小中学校児童生徒造形・書写秀作展 その他、似顔絵コーナーや沖縄体験学習コーナー、高校生川柳大会を設置した。				
目標に対する 評価	令和 5 年度（2023 年度）に比べ、作品数、出品者数、来場者数のすべてが増加となり、幅広く市民に文化・芸術活動に触れる機会を提供することができた。また、新たに高校生川柳を開催するなど、普段、文化・芸術に関わる機会の少ない若者世代が参画できる事業を開催することができた。様々な世代に向け、文化・芸術活動に触れる機会を創出することができたため、引き続き、市民文化活動の発表及び鑑賞の場、交流の場として開催する東海市文化祭に対して補助していきたい。				
課題・改善点	令和 6 年度（2024 年度）は、作品数が増加したことにより展示スペースが不足したため、令和 7 年度（2025 年度）は、会場レイアウトを関係団体と調整し、作品数の増減にうまく対応できるようにする必要がある。また、展示を中心とした文化祭の形式から、来場者が文化的な体験ができるワークショップなどを継続して実施し、新しい文化祭のかたちづくり、次世代への継承などを行っていく必要がある。				

単位施策 14-2 文化芸術活動の担い手を育成・支援する

【文化芸術課】

番号	1	事業名	芸術劇場自主文化（鑑賞・にぎわい）事業	事業費	74,720 千円
令和6年度 (2024年度)の 計画・目標		文化創造プランを踏まえ、市民が優れた文化芸術に身近に参加・体験ができ、市民参画による発表・創造活動が展開され、街全体に賑わいがあふれるようにするため、「ひとづくり」「にぎわいづくり」「生きがいくくり」の理念を掲げ、東海市芸術劇場において、様々な事業を実施する。			
実施内容		「東海市ひとづくりパートナーシップ」を締結した公益財団法人名古屋フィルハーモニー交響楽団と吉本興業株式会社を中心に、鑑賞・にぎわい事業等を実施した。 【公演】 ・菊池洋子ピアノ・リサイタル、ポップス・コンサート、アヌーナ〜ケルティック・クリスマス 2024、アンドラーシュ・シフピアノ・リサイタル、キーウ・クラシック・バレエ、J A Z Z の劇場、吉本新喜劇&バラエティ、0歳からわくわくオーケストラ等、22公演を実施（実入場者数 10,470 人、入場率 74.7%） ・交流パフォーマンス 276 回（実出演者 588 人、入場者数 3,931 人） 【美術展】 ・東海市文化祭美術部門入賞作品展覧会（出品者数 39 人、入場者数 155 人） ・木之下晃メモリアル 公演写真展（出品者数 31 人） ・交流ギャラリー 13 展示			
目標に対する 評価		幅広いジャンルの事業を実施し、様々な年代層の方の参加もあり、「にぎわいづくり」をはじめとした芸術劇場の理念に結びつけることができた。また、令和6年度（2024年度）は特に、ポップス・コンサートをはじめとした3公演で満員となったこともあり、前年を上回る入場率となり、より多くの幅広い市民が優れた音楽作品を身近に感じることができた。			
課題・改善点		「ひとづくり」「にぎわいづくり」「生きがいくくり」の理念の実現に向け、中長期的な事業展開が必要であることから、継続して実施する必要がある。また、新たな分野も含めた公演等を実施することで、芸術劇場の認知度を向上させつつ「にぎわいづくり」を図っていく必要がある。			

【文化芸術課】

番号	2	事業名	芸術劇場自主文化（ひとづくり）事業	事業費	44,993 千円
令和6年度 (2024年度)の 計画・目標	文化創造プランを踏まえ、市民が優れた文化芸術に身近に参加・体験ができ、市民参画による発表・創造活動が展開され、街全体に賑わいがあふれるようにするため、「ひとづくり」「にぎわいづくり」「生きがいくづくり」の理念を掲げ、東海市芸術劇場において、様々な事業を実施する。				
実施内容	「東海市ひとづくりパートナーシップ」を締結した公益財団法人名古屋フィルハーモニー交響楽団と吉本興業株式会社を中心に、次代の文化芸術を担う人材育成を中心とするひとづくり事業を実施した。 【公演】 ・東海児童合唱団定期演奏会、東海市子どものオーケストラ定期演奏会、TOKAI DANCE PROJECT、東海市民合唱団定期公演、劇場招待コンサート（市内全小学5年生、中学2年生）の6公演（実入場者数4,927人、入場率67.9%） 【ワークショップ等】 ・芸術劇場を拠点とする4団体（東海市子どものオーケストラ、東海市民合唱団、東海児童合唱団、東海市ダンスチーム Miakot）（延べ参加者数15,298人） 【アウトリーチ】 ・出会いの教室（市内全小学校4年生、適応指導教室「ほっと東海」を対象に全40回実施）（延べ参加者数1,090人） ・よしもと流楽しいコミュニケーション（緑陽小学校、横須賀小学校、加木屋小学校、高横須賀公民館、加木屋南公民館で全8回実施）（延べ参加者数814人） ・ふれあいコンサート（市内福祉施設等で全4回実施予定）（延べ参加者数204人） ・おながくさんはじめてコンサート（市内保育園で全6回実施）（延べ参加者数438人）				
目標に対する 評価	よしもと流楽しいコミュニケーションは、今回前年より実施回数を増やして開催した。それにより、より多くの子供たちにお笑いを通じたコミュニケーションのコツを経験してもらうことができ、今後の学校生活における円滑なコミュニケーションを図る一助となった。				
課題・改善点	「ひとづくり」「にぎわいづくり」「生きがいくづくり」の理念の実現には、中長期的な事業展開が必要であることから、引き続き芸術劇場を拠点として、長期にわたり質の高い文化芸術を提供していく。特に次世代の子どもたちが早期に文化芸術に親しむ環境をつくり、人材を育成し、市民主体の文化芸術の振興を図る必要がある。				

【文化芸術課】

番号	1	事業名	子ども芸能発表会開催事業	事業費	650 千円
令和 6 年度 (2024 年度) の 計画・目標	子どもたちが日ごろ取り組んでいる文化活動等の成果を発表することで、経験と自信につなげ、文化活動の普及や伝統芸能の継承を図るとともに、夢を持つ心を育むことを目的とし、子ども芸能発表会を開催する。				
実施内容	市内の小中学校、公民館・市民館、文化協会、各地域で活動している子どもたちが、日ごろ取り組んでいる伝統芸能や文化活動を芸術劇場大ホールで発表し、出演団体の展示コーナーをホールロビーに設置した。また、プロの公演として、「ラングド社」が器楽演奏を行った。 出演団体数 22 団体 出演者 382 人 来場者 1,616 人				
目標に対する 評価	子どもたちによる日頃の練習成果の発表を、普段あまり経験することができない大きな舞台で一堂に発表・鑑賞することができ、また、普段あまり接する機会の少ない団体（和の団体は洋の団体、洋の団体は和の団体）の演技を鑑賞することで子どもたちにとって良い刺激になり、達成感や自信に繋がり良い経験に繋がった。 さらに、大ホールホワイエに各団体の活動紹介展示コーナーを設けることにより、出演団体の活動が分かるだけでなく、各地域で継承されている舞や、学校で受け継がれている伝統芸能等の紹介を行うことができた。 また、プロの公演では、「ラングド社」の器楽演奏を聴くことで、心に響く貴重な体験となった。また、出演者が夢を叶えて、活躍している姿を観てもらうことで、努力し続けることの大切さや、夢を叶えることの素晴らしさを伝えることができた。				
課題・改善点	演目によっては、場面転換、来場者の入場に時間がかかることがあったが、場面転換時間等を考慮した出演順としたことにより、令和 5 年度（2023 年度）よりも円滑な進行を行うことができた。来年度以降も、引き続き、場面転換時間等のバランスを考え、出演順を設定する必要がある。また、例年より出演団体数が増加した場合に、公演時間が延長しないよう、円滑に進行させるための工夫や、長時間の観覧が観客の負担にならないような方法を検討する必要がある。				

施策 15 郷土の歴史・伝統文化・文化財の継承と振興

単位施策 15-1 伝統文化や文化財の保存及び継承を支援する

【社会教育課】

番号	1	事業名	文化財保存・普及事業	事業費	29,586 千円
令和 6 年度 (2024 年度) の 計画・目標	東海市の貴重な文化財を後世に引き継ぎ、文化財への関心を高めてもらうため、保存事業への補助及び普及事業を実施する。				
実施内容	文化財・埋蔵文化財(遺跡)の維持管理及び所有・管理者への補助事業を実施した。中でも観福寺(国・県・市指定文化財)の防災対策事業(消火栓、火災報知器の更新・機能強化)に対して補助を行った。 市道建設予定地内に所在する高ノ御前遺跡(大田町)を記録保存するため、発掘調査報告書を作成した。 老朽化している聚楽園大仏仁王像の補強工事の施工に向けて、実施設計を行った。 老朽化した文化財表示看板(圓通組山車、平洲の歴史を感じる散策路サイン(聚楽園駅前))の板面を更新した。 文化財防火デーに合わせて、諏訪神社(高横須賀町)で文化財防火訓練を実施した。				
目標に対する 評価	文化財等の維持管理及び所有・管理者への補助事業により適正な保存を図ることができた。 高ノ御前遺跡の発掘調査報告書を作成し、貴重な埋蔵文化財の情報を記録保存することができた。 老朽化した文化財表示看板の板面を更新することで文化財の普及活用に資することができた。 また、文化財防火訓練を諏訪神社で実施し、貴重な文化財に対する地域の防火意識の高揚に寄与した。				
課題・改善点	今後も文化財等の適正な保存を図るとともに、継続的に普及啓発を実施し、普及啓発事業の内容の検討をする。				

単位施策 15-2 郷土の歴史や文化に親しむ機会を提供する

【社会教育課】

番号	1	事業名	細井平洲顕彰事業	事業費	4,726 千円
令和 6 年度 (2024 年度) の 計画・目標	細井平洲先生の嚶鳴の教えを生かした交流を進め、全国への情報発信、ふるさと東海市への愛着を深めるため実施する。				
実施内容	平洲記念館・郷土資料館が開館 50 周年を迎えたことから、記念展示、子ども向けワークショップの実施、記念講演会、及び「へいしゅ				

番号	1	事業名	細井平洲顕彰事業	事業費	4,726 千円
	「カルタ」の制作を行った。 作家の童門冬二氏に平洲記念館名誉館長を委嘱し、細井平洲先生の遺徳を顕彰する事業を実施した。令和6年度（2024年度）については平洲記念館来館者等への配布を目的としたリーフレットを作成した。				
目標に対する評価	様々な事業を行うことにより、50周年の節目の年を契機に平洲記念館を広く知ってもらうことができ、平洲先生の遺徳顕彰に寄与することができた。 著名な作家童門冬二氏を平洲記念館名誉館長として、広報することにより、細井平洲先生の遺徳を市内外に広く顕彰することができた。				
課題・改善点	童門冬二氏が亡くなられたことから、今後の名誉館長のあり方を検討していく必要がある。 平洲記念館において引き続き講座等を開催していくことで、細井平洲先生の遺徳顕彰をはかっていく。				

【社会教育課】

番号	2	事業名	嚶鳴広場各種講座等開催事業	事業費	3,119 千円
令和6年度（2024年度）の計画・目標	嚶鳴広場において、童門冬二氏を顧問とし、細井平洲先生を始め全国各地の先人の教えや歴史をわかり易く発信するために、各種展示事業等を行うもの。 常設展示だけではなく、特別展示を行うことにより広く情報発信すると共に、来場者に飽きのこない施設運営を図る。				
実施内容	嚶鳴広場における童門冬二氏の図書及び資料の展示や各種講演会、特別展示等を実施した。 ・「童門冬二の嚶鳴講座」4回 ・特別展示 2回（嚶鳴広場追悼特別展示 等） ・企画展示 2回（ひなまつり展 等）				
目標に対する評価	顧問である童門冬二氏が逝去されたことから、展示予定を変更して追悼展示を行った。また、講座についても嚶鳴フォーラムに関連した講師をお願いすることで、細井平洲先生をはじめ全国各地の先人の教えや歴史に触れていただける機会を提供できた。				
課題・改善点	童門冬二氏が亡くなられたことから、事業のあり方を検討していく必要がある。 先人の教えや歴史を市民及び全国へ広く発信・顕彰するために、市民等のニーズに即した様々な展示、講演会、講座等を開催していく。				